

F.S



●製作にあたって

木枯らしの吹くさみしい感じではなく、色鮮やかで、じゅうたんの上を歩いた時の「ふかふか」「さくさく」というあったかそうなイメージです。尾州産地の特長であるウールを効果的に使えます。イチョウ1枚とっても、めずらしいカタチなので、テキスタイルにしたらおもしろいです。

B.S



イメージ



●当初のイメージとの比較

イメージした時に可愛いなと思いテーマにしましたが、講師と糸の組み合わせなどを工夫し、ただ可愛いだけでなく、肌ざわりや見た目も考えながら作ることができ、イメージ以上に「イチョウのじゅうたん」に近づけました。



■混用率 W52 C42 R4 N2

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

補修工場では、本当に細かいところまでチェックをして出荷されていることに驚きました。

●製作にあたって

スタイリッシュでしなやかな感じのテキスタイルにしたいです。春夏素材で軽く肌ざわりが柔らかくふわっとした感じで、犬のように毛足の長い生地に仕上げたいです。黒い斑点を霞がかった風合で出したいです。

F.S



B.S

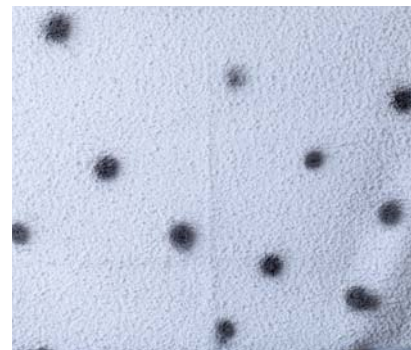


イメージ



●当初のイメージとの比較

手足はウールで表現しようとしていましたが、綿を取り入れました。これにより、ゴワゴワ感はなくなりスッキリとしたしなやかな生地になりました。



■混用率 N71.2 C28.8

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

犬の肌にある毛並みを強く出したかったので、それを表現しようとすると、ダルメシアンにスタイリッシュで涼しいイメージとは全く違った重く、暑苦しいものになってしまうので、理屈に合う生地を探すのに苦戦しました。しかし、それを綿で表現することによって実現できました。

●製作にあたって

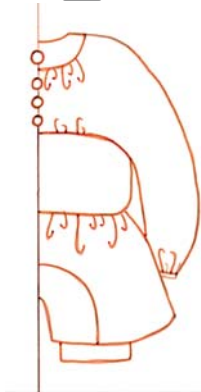
イメージはトウモロコシです。大小様々なサイズの粒や、黄色や白色の粒など、バラバラな形や色が、トウモロコシのようにひとつにまとまっている様子を表現したいです。糸の太さや種類も様々で凹凸感があり、立体感のある生地を作りたいです。色も様々で白と黄を混ぜた色合にしたいです。

F.S

B.S

イメージ

トウモロコシのヒゲ



●当初のイメージとの比較

当初は、春夏のイメージと冬の糸のイメージが、“ごちゃまぜ”な考えでした。それを色使いと美しい糸で表現することができました。ヒゲをイメージさせたタム糸も手で触った時に感じるように自然に入れた所がポイントです。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

織機工場をいくつか見学して、職人の手作業の技術に驚きました。テキスタイルになった時の色のバランスや大きさのイメージをつかむことに苦労しました。



■混用率 R67.4 Si29 W1.9 N1.2 M0.5

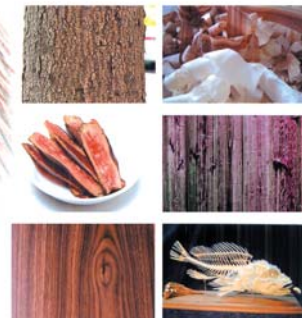
●製作にあたって

見た目と実際に着た時との差を表現できるテキスタイルにしたいです。ウール風で、柄はヘリンボーン、見た目は厚手に見えるけど、実際には軽い生地になりたいです。イメージソースは魚の骨。加工次第で食べることができるのに、刺さったら痛いという差。世界で一番堅い食品といわれるカツオブシは、薄く削ることによってダシ汁をとったり、食事に彩りを与えたりする事ができ、最初の見た目とのギャップが感じられます。色合は木の皮や長い時間をかけて色変わりした木のように、ただの茶色ではなく、茶色のような色の中にも赤や黒などが何気なく混ざっているような、遠くから見た時の印象と近くで見た時の印象が違う、楽しみのある生地になったらいいと思います。糸も茶色ベースに赤い糸や黒い糸、生成りの糸などを混ぜて、ただの茶色とならないようにしたいです。

F.S

B.S

イメージ

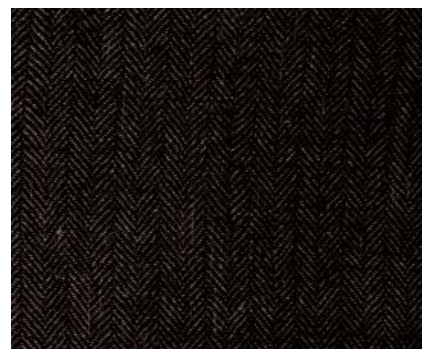


●当初のイメージとの比較

ヘリンボーンの特徴を分かておらずヘリンボーンの特長を活かせられないイメージでしたが、アドバイスを受けてより良いイメージのもとで完成することができました。

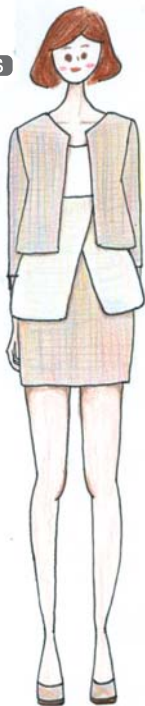
●新たな発見や学んだ点、苦労した点

工場見学など、普段は見られないところを見学できました。

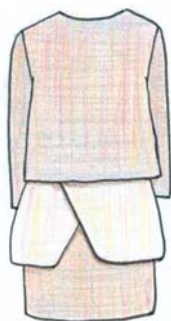


■混用率 W100

F.S



B.S



イメージ



●製作にあたって

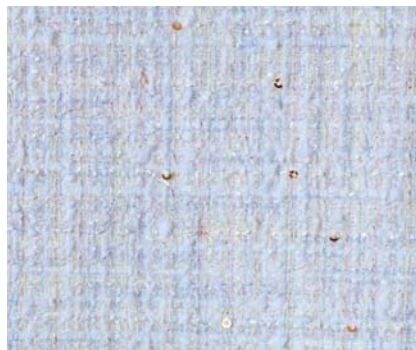
雪や雲など、自然の中にあるものを、そのまま柔らかなイメージを残しつつ、ナチュラルにまとめたいです。ファンシーヤーンを多種使用し、華やかさのあるツイードをベースに、ラメ糸やリボンを織り込み、よりデコラティブにします。全体的に雪や雲を連想させる白を用いて、柔らかく、ナチュラルなイメージにします。仕上では起毛せず、さらとした生地感に仕上げます。同色系でまとめ、たくさんの種類の糸で織り上げるツイードを作成したいです。ガーメントへもテキスタイルのイメージソースをそのまま落とし込み、柔らかく、ふわとしたシルエットを作ります。全身のスタイルングを同色系でまとめることで、統一感を出します。

●当初のイメージとの比較

当初は白や生成りをベースに使用、同色系のファンシーヤーンを織り込むイメージでしたが、完成したものは、ピンク・黄・青のかすり糸をベースに、白のファンシーヤーン、ゴールドのスパンコール、シルバーのラメ糸を使用しました。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

たくさんのファンシーヤーンの中から使用する糸を選択しました。初めて見る糸がとても多く、選ぶのが楽しかったです。生地になった時を考えながら選ぶ点は難しかったです。



■混用率 N36 C34 Li13 R12 Pe5

F.S



B.S



イメージ



●製作にあたって

英国デザイナーのヴィヴィアン・ウエストウッドからイメージしたロンドンの街に似合うような服を製作します。ユニオンジャックの配色をロンドンの街のイメージカラーに置き換えた柄にしたいです。ウールのツイードで、デザイン画のシルエットが表現できる組織や仕上にしたいです。

●当初のイメージとの比較

当初は、赤や茶色などの色の糸で作るつもりでしたが、青や黄を使うことで、柄を際立たせつつも、イメージ通り落ち着いた感じになりました。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

柄の大きさや糸の色などを決める際に、完成イメージを想像できず大変でした。講師と何度も打ち合わせを重ねたり、パソコンによって柄を出したりして、とても分かりやすく進められました。



■混用率 W90 N10

F.S

●製作にあたって

アイヌ民族を研究しています。私の住んでいる三雲町は北海道の名付け親の生まれた街ということで、昔からアイヌ民族との親交がありました。もっと広くたくさんの方にアイヌ民族を知ってもらいたいです。素材は綿麻で、春夏パンツスーツをイメージし、適度なハリコシとナチュラル感を出したいです。

B.S

イメージ



●当初のイメージとの比較

当初のイメージとは異なりますが、オリジナルのテキスタイルとしてはすごく良いです。



■混用率 C96 N4



■混用率 C100



■混用率 C98 Pu2

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

自分のイメージを仕上げていくのに苦労しましたが、出来上がっていくのがとても楽しかったです。

F.S

●製作にあたって

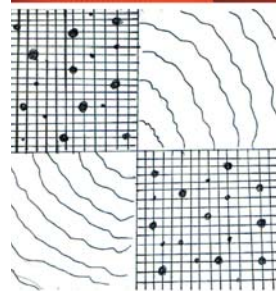
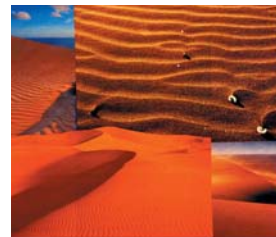
サラサラした砂、なめらかな曲線を出せるように、細かな織りとファンシーヤーンを取り入れ、ステッチを入れます。尾州特有のウールと表面感がザラついている麻を混ぜて砂に近い雰囲気を出します。

ストール

B.S



イメージ

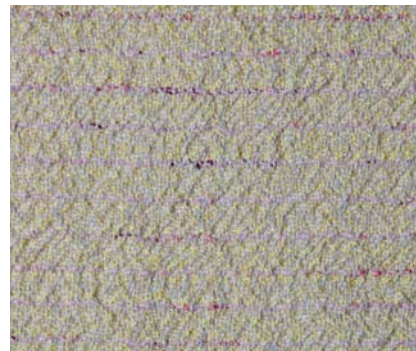


●当初のイメージとの比較

砂漠の細かい砂をテキスタイルにどう近づけようか、講師の知識を参考にする事で自分の考えより更に、砂漠のイメージに近づけることができました。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

織や染色等なかなか学校では学ぶ事ができないので貴重な経験になりました。



■混用率 W75 Li25

F.S



●製作にあたって

全体は、タータンチェックのように、黄色、オレンジ、薄い黄色など、3色から5色程度を使用し、細かいチェックを作ります。できるだけ細かく、キュプラを使い、塩縮加工を行い全体的にボコボコする生地を作ります。

B.S



イメージ



●当初のイメージとの比較

当初イメージしていたものに限りなく近いテキスタイルが完成しました。イメージしていたカラーと少し違う部分もありましたが、凹凸感等イメージ通り再現できました。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

翔工房に参加し始めた頃は、学校で学んでいた事より深くテキスタイルに関わるので、不安がありましたが、講師の熱心な指導により、詳しく学ぶ事ができました。



■混用率 W64 Cu33 パンプーR3

F.S



●製作にあたって

空には、色んな姿があり毎日違います。その空と青と浮かび上がる雲の白をベースにデザインしました。尾州の特長を活かして、ウールは必ず取り入れたいです。空の色んな姿を表現するために色んな糸を使用して、青と白を出したいです。自分の好きな空をデザインしました。

B.S



イメージ

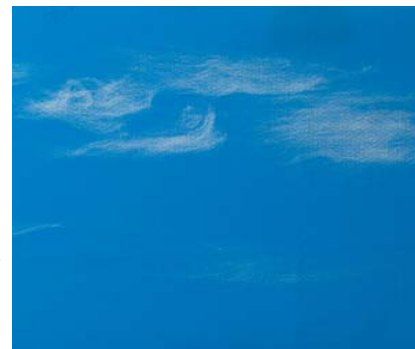


●当初のイメージとの比較

イメージのように様々な雲の動きを表現できました。空と雲の色がきれいに混ざり合っています。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

講師の手作業で作った雲をニードルパンチという技法で完成させました。翔工房に参加し、講師の先生方とのコミュニケーションをとる中で、「伝える」ことの難しさを改めて学ぶことが出来ました。



■混用率 W100

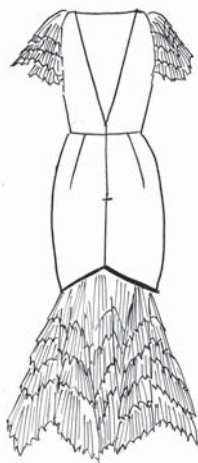
F.S

●製作にあたって

鯖、さんま、あじ、いわしといった青魚の表面のような光沢をイメージしました、ウールのもったりとした温かみのある風合でなく、冷たく、かたい風合を出したいです。メインとなる生地には、ハリのあるかたいものを作り、うろこのようなざらざらとした手触りを表現したいです。また見る角度によって輝きが変わるものにしたいです。一方、袖とスカートの裾には、柔らかく、歩くと揺れ動くような素材を使い、魚が群れをなして泳ぐ、まるでいわしのトルネードをイメージさせるような生地をしたいです。尾州産地の長を活かしつつ、ウールの新しい表現を見つけたいです。



B.S



イメージ



●当初のイメージとの比較

最初にイメージしていた魚のうろこのようなかやがきというもののとても近いものができました。デザイン画のスカート裾や袖のフリルのところもうまく表現できました。



■混用率 N41 W41 パンパー18

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

羊毛でここまで薄い布を作ることができるとは思いませんでした。光沢感を出すのが難しかったです。



■混用率 W60 パンパー33 Pe4 N3

F.S

●製作にあたって

海の妖精「クリオネ」をイメージしました。ウールをできる限り透け感や、柔らかさを持たせ海の中を優雅に泳ぐ姿を表現したいです。秋冬にも関わらず透け感、優しい温かさのあるテキスタイルにしたいです。



B.S



イメージ



●当初のイメージとの比較

無地の生地をイメージしていましたが、結果的にジャカード織により、グラデーションとクリオネの模様が入り、遊び心のあるテキスタイルになりました。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

フィラメント系の糸の読み方等、用語面で多くの単語を吸収できました。苦労した点は何と言っても「匠とのイメージの共有」です。一つの歯車がかみ合わないだけで、修正するのに難航してしまいました。



■混用率 W50 N30 Pe20

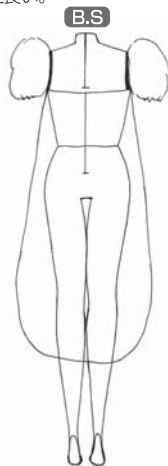


F.S

●製作にあたって

「光を着る」と言っても、中から人工的に発光させるのではなく、素材の透け感や光沢によって、光を感じさせるものにしたいです。

- なるべく薄く、和紙のように繊維が見える。
- 均一な見た目ではなく、ムラが欲しい。
- わたげのようにふわふわとした軽い素材。しかしハリがあるとよい。
- わたげは毛の重なりで外枠があるように見える。そのように薄い布が重なるところ、重ならないところで表情のある作品にしたい。
- 柄を作るわけではなく、ムラで表現したい。
- スポンはプレーンなジャージー素材を使用する。ストレッチがあり、光沢が少しあると良い。



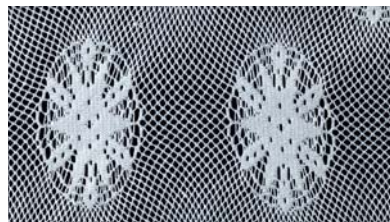
B.S

イメージ



●当初のイメージとの比較

イメージ通りのものができました。すぐ素材にこだわら、和紙や熱と水分によって硬くなる糸を使うことができませんでした。ラメの編み方も非常にこだわっていて、ねじらずにそのまま入れることで少し違ったきらめきになりました。



■混用率 W43 和紙24 Pe20 Si10 N3

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

色々な素材があると実感しました。編み方も大切ですが、素材によってこんなにも変わるんだということにとっても驚きました。すぐに編み方なども決まったので講師に感謝しています。



■混用率 W60 ラメ40